

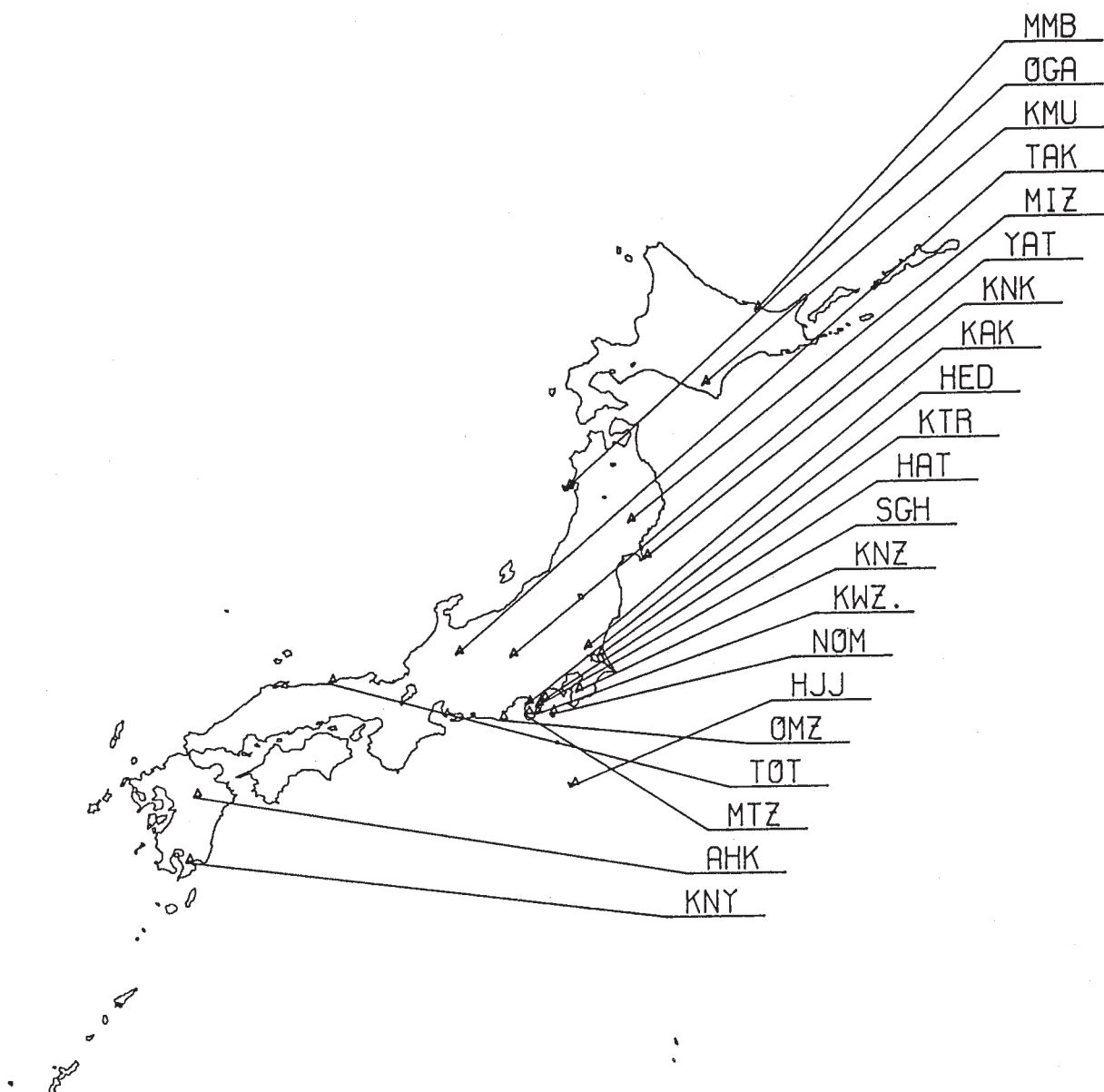
7 - 4 地震予知研究計画に基づく地磁気永年変化精密観測 1977年1月～1984年10月

Precise Observation of Geomagnetic Secular Variation under the Project of Earthquake Prediction Research, January, 1977 - October, 1984

地震予知研究計画・地磁気研究グループ
Geomagnetic Research Group on Earthquake Prediction

この報告は1977年1月から1984年10月までの期間における柿岡（KAK）を基準とした地磁気永年変化観測点のプロトン磁力計による全磁力夜間値差を解析したものである。現在の全測点数は21であり、第1図にそれぞれの位置を示す。さらに、各地点の全磁力差、柿岡の全磁力値、柿岡の該当時間帯のK指数それぞれの月平均値を第2図に示す。スケールは20nT/1目盛である。参考のために女満別（MMB）及び鹿屋（KNY）の柿岡に対する全磁力永年変化の一次回帰直線を書き加えてある。なお、使用データは、1980年3月以前は00時40分～01時20分の5個、1980年4月以降は00時40分～03時00分までの15個の10分毎の一分値である。ただし、金華山（KNK）については全期間を通じて5個である。又、同時に上記の値の1984年7月から10月までの日平均値を第3図に示す。スケールは図右端に示すように10nT/1目盛、K指数は5/1目盛である。

前回報告以後1984年7月から10月にかけての特筆すべき現象としては、9月ごろの伊豆東方沖で群発地震が挙げられる。しかし現在収録されている資料の範囲ではこの時期の伊豆半島・伊豆大島での全磁力夜間値の変動には顕著な異常は認め難い。次は、9月14日の長野県西部地震が顕著な地震活動であるが、震源に最も近い高山（TAK）のデータには9月6日から7日にかけて異常な変化がある（第3図）。詳しい事は現地で調査中であるが人工擾乱である可能性が大きい。最後は8月の雲仙岳付近の地震活動が挙げられるが、最寄りの阿蘇（AHK）のデータには異常変化は認められない。

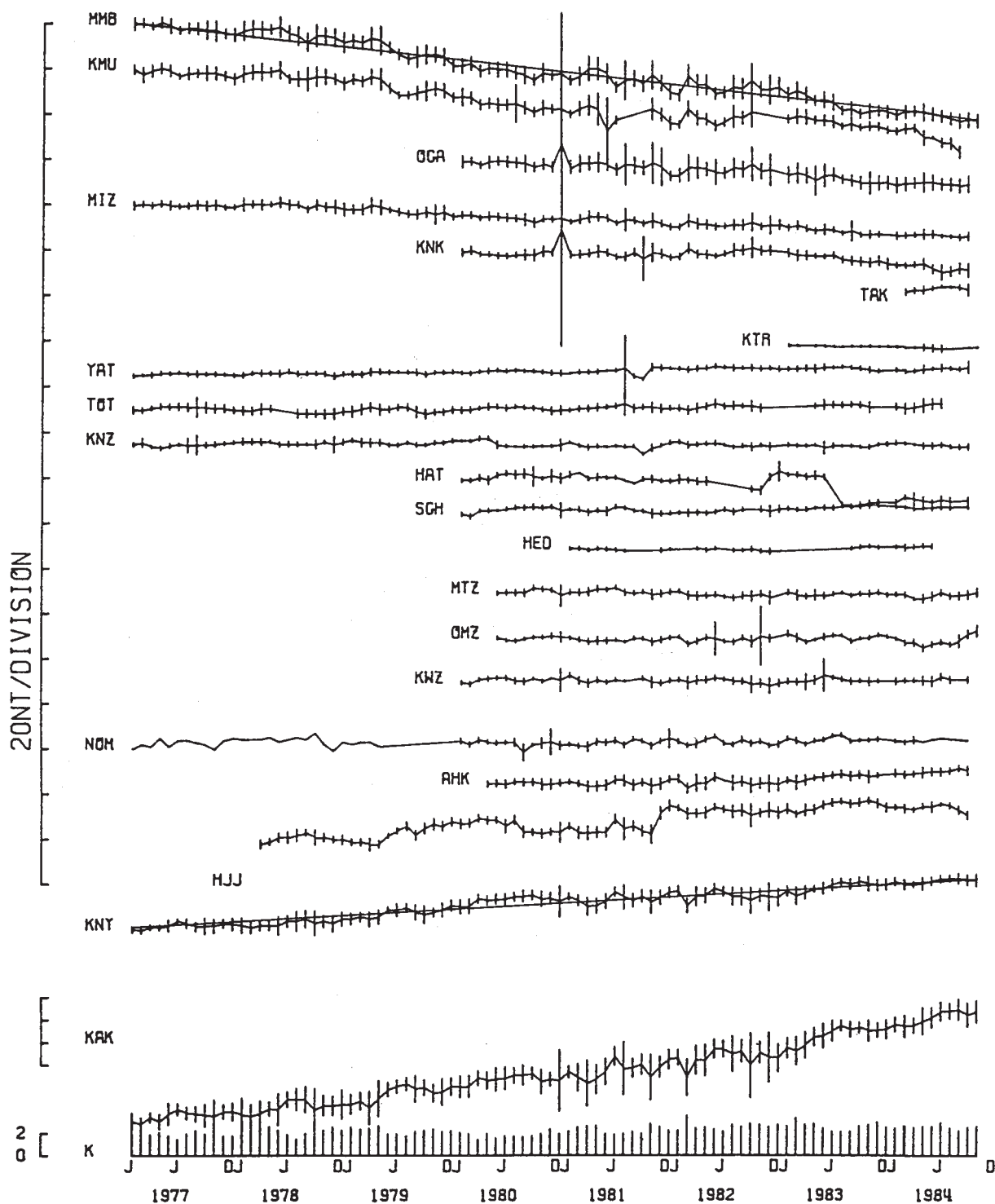


第1図 観測点の位置

Fig. 1 Distribution of observation stations.

MONTHLY MEANS OF DIFFERENCE IN TOTAL FORCE

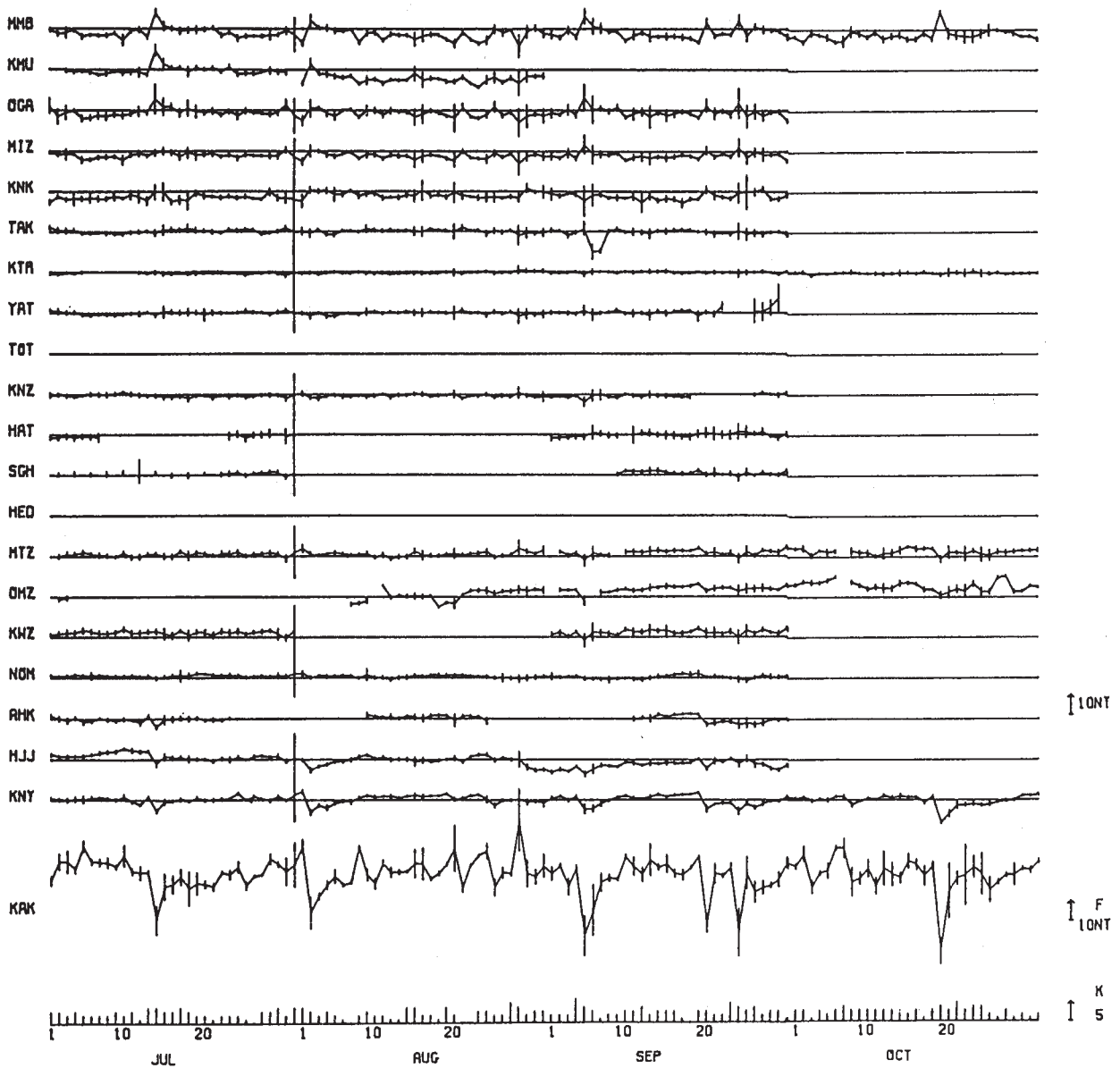
1977 - 1984



第2図 柿岡に対する各観測点の全磁力夜間値差の変化(月平均値)
1977年1月～1984年10月

Fig. 2 Month-to-month change of the difference of nighttime total force intensity at each station from that at Kakioka, for the period from January, 1977 to October, 1984.

DAILY MEANS OF
DIFFERENCE IN TOTAL FORCE
JUL - OCT, 1984.



第3図 柿岡に対する各観測点の全磁力夜間値差の変化(日平均値)
1984年7月~1984年10月

Fgi. 3 Day-to-day change of the difference of nighttime total force intensity at each station from that at Kakioka, for the period from July, 1984 to October, 1984.